



認知症施策に対する キャッチフレーズとオリジナル キャラクターについて

京田辺市高齢者支援課 地域包括支援センター

これまでの認知症施策・・・

- ▶ アルツハイマー月間（図書館展示、ライトアップ）SOSネットワーク、GPS助成事業、認知症サポーター養成講座など。
- ▶ 様々な取り組みや企画を実施するが、市民や関係機関への周知が進まないことが課題となっていた。（PRの弱さ）
- ▶ 認知症施策の目的や目標を象徴するものが必要ではないか？

↓ 具体的な何か

わかりやすいキャッチフレーズと親しみの持てるキャラクター



今後の展望

- 認知症に関するすべての事業や施策に主題となるキャッチフレーズとオリジナルのキャラクターを提示することにより、京田辺市が認知症施策に力を入れていることをわかりやすくPRする。
- 認知症の人にやさしいまちづくりを目指していることを市民に理解していただくきっかけになる。
- これまで認知症に無関心であった人たちの注目を得る。
- 地域の支え合い精神を培うことができる。

具体的なキャッチフレーズ

▶ いつまでも つながってこか 京田辺

▶ 参考：便利でいいやん 京田辺

▶ 意味・・・認知症の人には、記憶が繋がらないことに対する不安や怒り、また戸惑いなどの感情がある。しかし、周囲の人が認知症を正しく理解していれば、忘れたりできなくなったりしても、優しく声をかけ、手助けすることができる。記憶のつながりも重要であるが、家族や友人など人と人のつながり、地域や事業所とのつながりなど、たくさんのつながりが地域で暮らしていく上で誰にとっても大切である。

いつまでも・・・「幼いころから高齢になるまでずっと」という、その人の人生や生活を表す。

つながってこか・・・今までのつながりだけでなく、これから出会うつながりも大切に。

▶ あえて『認知症』という言葉を入れないことで、これまで関心を示さなかった層に向けてもアピールしていく。

具体的なキャラクター



- 京田辺にゆかりのあるもの（市の木、市の花）をキャラクター化した。
- ナンキンハゼ・・・葉が緑→黄色→赤と紅葉していく様子に、人生を重ねている。また、ナンキンハゼの実を葉に乗せており、実り＝成熟していく姿を表している。
- ナンキンハゼの花言葉「まごころ、心が通じる」という意味にも注目した。
- ヒラドツツジは「初恋」という花言葉であるが、小さなころからずっとつながっている記憶という意味を込めた。
- オレンジリング・・・認知症サポーター養成講座を修了した人が手にすることができた。受講証カードに替わった今でも、認知症サポーターの証として重要視されている。
- キャラクターがいることで、子どもや若者などの層の注目を得ることができる。

具体的な活用方法

- 認知症サポーター養成講座の教材、事業案内チラシなどにキャラクターを活用。
- 図書館展示やライトアップなどのイベントのタイトルにキャッチフレーズを引用。

例：『いつまでも つながってこか 京田辺 ～作品展示～』

『いつまでも つながってこか 京田辺 ～ライトアップ～』



京田辺市が目指す方向性

- 認知症施策を進めるにあたりキャッチフレーズやオリジナルキャラクターを作成し、一貫して掲げ活用することで、市民や関係者の興味関心を惹いていく。
- キャッチフレーズやオリジナルキャラクターを通じて人々に一体感（仲間意識）が生まれ、地域全体に認知症への理解や支援が広がることを目指す。

いつまでも
つながってこか



京田辺